

# 体育館完成記念号

# 聖隷学園報



発行所  
 学校法人  
 聖隷学園  
 浜松市三方原町3458  
 電話(0534)86-5311  
 郵便番号 438  
 発行責任者 長谷川 了

## 身心鍛練の殿堂

理事長 長谷川 保



聖 向  
 「行って、天国が近づいた」と宣言  
 伝えよ。病人をいやし、死人をよみ  
 追い出せ。ただで受けたのだから、た  
 だで与えるがよい。  
 (マタイ一〇章七―八節)

早春とは言え、桜花既に聖隷の  
 庭に散らして、春来るを告げて  
 います。いま、一年の工程を経て  
 殿堂というにふさわしい建物を  
 体育館兼講堂が竣工しました。  
 その偉容は正に三方原を圧して  
 います。壮大なこの好まな僕に  
 として聖隷集団の数十の建物の中  
 で最も気に入った建築物で、先づ  
 設計者に対して感謝の意を表した  
 い。  
 聖隷学園の目的は申すまでもな  
 く人間の教育にあります。然し、  
 その設立の経緯が示すように、今  
 日、その教育には一つの目標があ  
 り、今や、全日本に発展して行き  
 つつある聖隷福祉事業団諸施設  
 に奉仕する看護婦、士等の教育役  
 成を重要な目的としています。事業  
 それ自身が病人や老人や肉体的  
 的、精神的に不幸なハンディを背  
 負って生れた子供達に奉仕するこ  
 とであり、或は乳幼児の保育や、  
 或は又、農山村や中小企業の職場  
 に入って行つての予防検診事業と  
 言う、凡そ、人間を大切にすな  
 人間社会における最も崇高な仕事  
 する人間は、肉体に於ても精神に  
 おいても、この崇高な事業に從事

するに耐え得るものでなければな  
 りません。これを養うのに最も適  
 切な教育訓練の場は体育館である  
 と思います。  
 例えは、看護の仕事は、強健な  
 肉体の所有者でなければ不可能  
 ありますが、これに加えて健康な  
 精神が必要であります。か、に、  
 いま交通事故によって血だらけに  
 なっている瀕死の重傷者がかつぎ  
 込まれたとする。直ちに、冷静に  
 事態を判断して、適切な処置を果  
 断に展開する。どんな重大な事態  
 にも迷わずびくともしない。頭の  
 回転と共に体が直ちに行動する。  
 こういふことは、適確な看護の知  
 識や技術を熟知していることと共  
 に、体育によって最も身につくも  
 のであります。スポーツはまた、失  
 敗を苦にしない、淡々と仕事を失  
 敗はあるものであるが、失敗は、  
 れた手を行つて、直に、立直る。  
 て、次の手を打つて習性を身につけ  
 ることは看護においても人生にお  
 いても極めて大切なことであら  
 ず。キリスト教信仰で重要な一つ  
 は悔い改めと言つて重要なこと  
 去を捨てて全く新しい生活に生

きること、我々はこういう性格  
 を身に付ける必要がある。これを  
 文字通り体に覚えさせるのも又  
 スポーツだと意識。私の性格には  
 こういふ性格が相応身に付いて  
 いるように思うが、これら若し  
 時に柔道で身についたと思ってい  
 る。スポーツマンはまた、淡白清  
 女性格が身につくもので、小さな  
 ことにこだわらないものであり又  
 賤しいことは嫌いだ。  
 新体育館では主としてバレー、  
 バスケ、ボクシングやボクシング  
 等が出来るようになってはいるが  
 必要であり幾分必要であり強  
 んな筋肉が必要である。ここでは  
 これを養いたいと思つています。今回  
 は柔道、剣道場や、水泳のプ  
 ルが出来なかつたが、これらも  
 速かに工夫を講じて体育として出  
 来るようにしたいと思つています。  
 最近ほとんどと腰痛症だ、労災  
 だと騒ぎ立てるが、これは、凡  
 そ、看護や寮母の仕事に依り強  
 健な肉体的鍛練を、若い日に怠  
 た結果であつて、この種の職業  
 に従事するものは深く考える必要  
 があると思つています。  
 一階の体育館に併せて一階は講  
 堂并拝堂を兼ねる構造になつて  
 います。体育による強健な肉体と精神  
 の鍛練に加え、聖書における神  
 と真理を愛し、隣人への愛と奉仕  
 の精神を育て、養うことであるに  
 意を深く置きます。これらも又  
 看護する者としてなくてはなら  
 ないものであり、人生における最  
 も基本的な生活態度を決定する重  
 要なものであります。僕が、その  
 若き日において、日本の最も偉大  
 なキリスト教徒であつた内村鑑三  
 植村正久、高橋徳太郎、賀川豊彦  
 等の諸先づの人格に触れ、聖書  
 教えられたことが、私の生涯を決  
 め、それの半世紀に亘る喜び  
 と希望に溢れた人生を私のものと  
 せしめたものであり、聖隷福祉事  
 業を興して来た方となつたのも  
 業團を建設して来た方となつたも  
 のであり、あの絶望と悲愴の日本  
 底であつた戦後の中で無数の日本  
 の人を絶死に救つた日本文を今日  
 の日本に再興することに献身した  
 不屈の勇氣と清らかな生活を生き抜  
 いた方の源泉となつたのでありま  
 す。どうか若き君がここで聖書  
 を真剣に学びその精神を身につけ

て欲しいと思つています。  
 この建設には一億八千万円を  
 やせました。が、教師の皆さんを始  
 めその他の多くの職員、PTAの  
 皆様、市民の皆様、また、浜松市  
 その他公私各方面の皆様御尽力  
 力、御寄附、理解ある御融資等  
 え切れぬ程の御尽力を戴  
 ました。まことに感謝に耐えま  
 せぬ。  
 希くばこれら各方面の御尽力  
 御協力に心え得ます様、全生徒  
 生徒の皆様が、こころを身振の  
 道場として活用せられんことを希  
 つて止みません。

## 天国が近づいた

牧師・教授 西村 一之



右はマタイ一〇・五―一五のう  
 ち書き出しの引用である。これは  
 ひとりのクリスチャン達が一九  
 三〇年(一九五年)、貧困に苦悩す  
 る結核患者を収容して休養させる  
 ことを目的として、「愛樹園」と名  
 づけた施設を運営しようとして決心  
 した時、よつて立つ精神を八人に  
 に求むべきが熟考して得たもので  
 ある。主イエスが弟子として従  
 いたと頼り人々の人々を導出した  
 いたと頼り人々の人々を導出した  
 いたと頼り人々の人々を導出した  
 いたと頼り人々の人々を導出した  
 いたと頼り人々の人々を導出した

に読む、創設当初の祈りと志を  
 想起し記すわけである。ちなみに聖  
 隷高校では校歌として讚美歌三九  
 三を借用しているが、愛樹園の創  
 設の時には三三八と三三九を唱  
 したといふ。  
 これから数回にわたって、主イエ  
 スのことばについて解説してみよ  
 う。そして建学の精神を確認した  
 いと願ふ。  
 主イエスが十字架で処刑されて  
 死後、まもなく百二十人ほどの人  
 が集合して居た。これがキリス  
 ト教また教会となつてその後の世  
 界を歴史に驚くべき影響を及ぼし  
 続ける一大運動の最初の人達であ  
 る。かれらは広い意味での弟子達  
 である。生前、すてに直接に薫陶  
 を受けたひとりとてであるが、かれ  
 らのうちさらに専従者としてかな  
 り早い時期に選出されたのが前記  
 の十二人である。十二の数は象徴  
 である。  
 前十一世紀、イスラエル統一王  
 國ができた時、十二の部族が統合  
 したためであるが、のち四世紀に北  
 半分が滅びた十部族は八部族に。こ  
 の後、イスラエルは国名や民族名  
 としては消滅してしまふ。歴史の  
 舞台における試練を通じてかれら  
 願としていたこと、いつか  
 なる道をたどってそれが実現す  
 るか。失われたものを再び回復す



「異邦人の道徳」(出エジプト二〇三一七)とある。異邦人は当時のギリシヤ人、ローマ人を意味している。主イエスは民族的にはユダヤ人であるが、すでに民族主義を克服し、異民族への偏見も軽微の観念を有しなかつた。事実、平和的なユダヤ人なら無視してつけつき合わないギリシヤ・ローマ人に伝道している。この禁止のことは、ユダヤ人である弟子達に向つてまず第一義に担つて果すべき相手は同胞、イスラエルであるとの強調をあらわす。次の「サマリヤ人の町にはいるな」とも同種である。サマリヤは北ガリラヤと南のユダヤとの中間地域にあり、前述の前八世紀の滅亡時に十部族の大部は、虜となつてアッシリアに強制移住せられた。アッシリア人が移住して同化して形成したのがサマリヤ人である。したがってサマリヤ人とユダヤ人は相互に反目して交際しなかつた。主イエスはこのサマリヤ人に対して、あめしといふ言葉で、サマリヤ人のたえ話(ルカ二二・五二)で神の愛を教示された。弟子となつたばかりの非力な未熟なものを連対して、ちよとインテリを訓練するよう、まづ初歩の第一歩として同胞、同胞に伝道と福祉の奉仕の実践を行へ。責任を果せと使命を託されたものである。

では次の「羊」とはなにを意味するのであろう。ことに、先われは「羊」とは次号に表わすのか、むしろは次号にゆづりたい。この語も聖書の固有の風土と世界、独自の歴史と思想を担つている。とくに主イエスにおいて。

昭和二年八月、敗戦、徹底的な日本の崩壊を前にして、現理部長(当時聖隷保善園長)長谷川保氏は掛川在の農家の館屋に引きこもり、一週間の断食をして如何に処すべきかを神に尋ね求めて祈りつづけた。その結果得た第一の答は、「祖国の再建は青年の精神復興にあり」ということであつた。三万原に帰るに長谷川氏は、同志島居忠一、福原達三、松本美実、教頭らとともに夜毎に祈禱農耕を訪ねてキリストの教を伝道して歩いた。青年団、小学校の先生の会合、婦人会、P.T.A.等々への出張講演が続き、福原先生は静岡県社会教育委員に任命されて浜名地区担当という事になった。この様な運動の根拠地として建てられたのが遠州基督学園であつた。教頭の島居福吉先生という名目で、



短大51年度卒業式

は三十年度の年月を重ねて、当聖隷基督学園の中に、教育という分野が存在し続けた。その必然性を思い、今は短大・高校として存在する聖隷学園の使命を、将来にわたつて展望する賞ともならば、先生現、静岡大学工学部教授の職を捨てて聖隷の事業に身を投じておられた。をお訪ねして当時の事をあれこれと伺つてみる。伝え聞いている事どもの整理と確認の爲に。

断片的なお話を伺う中で、この学園の発生は、一つ一つの具体的な要請に応じて行つた行動と、それらに貫いて押し出す一つの理念が明確であつた事と確からされた。

昭和二十二年八月、敗戦、徹底的な日本の崩壊を前にして、現理部長(当時聖隷保善園長)長谷川保氏は掛川在の農家の館屋に引きこもり、一週間の断食をして如何に処すべきかを神に尋ね求めて祈りつづけた。その結果得た第一の答は、「祖国の再建は青年の精神復興にあり」ということであつた。三万原に帰るに長谷川氏は、同志島居忠一、福原達三、松本美実、教頭らとともに夜毎に祈禱農耕を訪ねてキリストの教を伝道して歩いた。青年団、小学校の先生の会合、婦人会、P.T.A.等々への出張講演が続き、福原先生は静岡県社会教育委員に任命されて浜名地区担当という事になった。この様な運動の根拠地として建てられたのが遠州基督学園であつた。教頭の島居福吉先生という名目で、

西村ミサ

やがて福原先生が静岡英和女学院に転任される事になり私共夫婦がそのあとに移り住んだ。四畳半一間と六畳一間の板敷の箱の様な家だつた。引越しがすんだと思つたら学園の生徒が一人二人と、ふとんと机を持ってやつてきた。先生達と一語に住むのだと言う。あつてはとれられているうちに共同生活が始まつた。寄宿舎となつたわけだ。一人増え二人増えして我々を入れて十一人が住んだ。夜は足の踏み場がなくて困つたのを思い出す。

朝五時には病室の仕事が始まる。今のわかば保育園の所だから病室まで松林の中の細い道を通り、大谷川の土橋を渡り、一山登つて病室に着くのである。午前中労働、その後病室で昼食をすまして、午後四時間の授業。授業が終ると病院の炊事場で食事をとり、いり込んで話に花が咲く。学んだ授業の疑問、病室の患者さんの事、読んだ本(ヘルマン・ヘッセ)や詩(読んだ)。(個人の生活や性格についても批判した)。思はず皆豊かな可能性をもつた子供達であつた。打ては響く、そんな中で私自身も眼を開かれていくのであつた。

どうしてこの子達が高等学校に行けないのか。大学に学ぶ事ができないのか。これ程の探求心を持つていまま、都会では皆大学に行つていられないのか。私は憤りも悲しみも云えない想いで彼らに話の辞書を引いている彼らに、早くなきなさいを繰り返しながら、静かな山の家の夜更けを考へてしまふのであつた。

ほんの数日前までは、工事の足場が組まれコンクリートの灰色の冷たい壁を所々から覗かす建物であつた。それが今日(二月十四日)は完成の式典が催されるのである。十一時半、高校生・短大生、来賓、教職員など約八百名程が参集し、献堂式は開会となつた。

西田昇先生のオルガンから前奏が響き始め、山田基男先生のリードのもと、讃美歌第七五番が教壇に歌われる。

広々とした会場に「ハレルヤ、ハレルヤ……」と、長い間念願であつた体育館講堂を現われたのである。に、今、眼前に素晴らしい姿を以て「あなたの家に住み、常にあなたをほめたたえる」人がさいわいであるように、すずめのすみかやつばめのひなの巣が得られるように(詩篇第八四篇一、四……)と願ひが実つた。

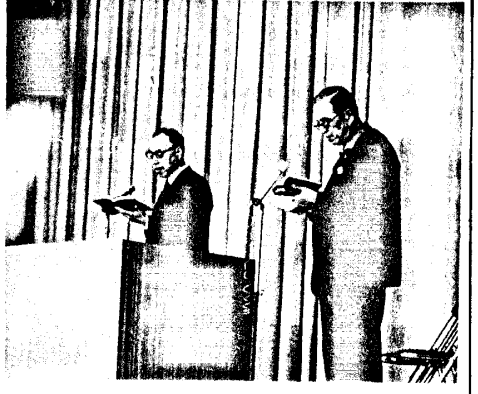
の願ひが実つた。聖書の言葉を深くかみしめながら祈禱すると、参集者の頭が自然に感謝とともに低く垂れていくように感じた。

続いて、本学園の長谷川保理理事長より精神的あるいは経済的な多岐の援助によって成し得たこの事業に対する御礼、そして、今後開か

れた施設として活用していく使命の尊さが喜びの詞の中で述べられ、式典を最高潮にしている。讃美歌第四九番が体育館講堂の天上(天井)高く響いていき、それまで時折、激しく吹いていた風の音もいつしか、歡喜の歌にかわつていった。

この献堂式を無事理えられることの喜びと、感謝と、聖隷学園の今後の発展を祈り式典が終えられた。その後、この体育館講堂を設計したアルツ、相模設計事務所、建築を請負つた、池不動産建設事業部の代表の方々に、長谷川理事長より感謝状等が授与され、さでて工事を見守つてくれた担当の方々に、聖隷高校より花束が贈呈された。

昨年の夏以来、約半年間をかけて作り上げられた体育館講堂が、塗料や床板の新鮮な香りを伴ない、私達の手に届けられたのである。この時が、「わたしたちは朽ちない冠を得るために……」(コリント第一書第九章四一、七)の聖なるすみかを充分に活(生)かさなければ、と痛感をいたしました。(鈴木良見)



献堂式に寄せて

- 皆さまのレクリエーションセンター
- 体育館・講堂のご利用希望は総務部へ
- ☆体育館・講堂の使用について
- ☆申込窓口 学園事務局総務部
  - ☆使用時間 平日 六時～二時 祝日 八時～二時 日曜 二時～二時 但し平日八時～八時は学園授業に使用いたします。
  - ☆使用上の注意
    - ◎ 体育館内及び講堂において体育館用シューズを履いて下さい。素足・土足での入場は禁止いたします。
    - ◎ 飲食物・ペット類は持ち込まないで下さい。
    - ◎ 所定の場所で喫煙して下さい。
    - ◎ 使用前後にモップがけを行って下さい。
    - ◎ 整理・整頓に気をつけて下さい。
    - ◎ 持込みする器具・備品は事前に管理責任者の許可を得て下さい。
    - ◎ 長時間放置された私物は学園で処分いたします。
    - ◎ 許可された時間内に滞留も終了して下さい。
    - ◎ 他の使用者の迷惑にならないよう注意して下さい。
    - ◎ 所持品は各自で管理して下さい。
- なお授業のない場合には、時々(一八時)の間でも使用申込の受付を行います。どうぞお申込み下さい。



待望の体育館兼講堂落成

大いに活用しよう

浜松衛生短大教授

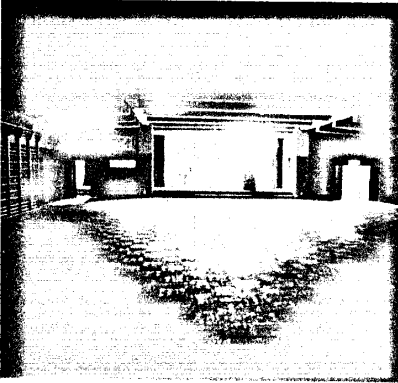
山口 国一

一九七七年の春を迎え、すばらしい殿堂が、わたしたちの学園に落成いたしました。北にそびたつ万石を望む野の一角、緑豊かな森に学ぶ若人たちが、ひびく待望していた体育館がここに講堂が、その偉容を誇るかのやうに雄姿を現わしました。学園当局のなみなならぬ苦心とこの学園を手を尽くした教職員、父兄、卒業生等をはじめとする多くの方々、関係各方面の善意によって、外観内装ともに近代設備の粋を集めたこの殿堂がここにそびえあがったのです。ありがたいことです。それだけにこれを単なる一施設としてみるわけにはまいりません。この聖蹟の地には、その名にふさわしく幼児から老人に至るまでの多くの福祉施設があり、そのいずれもが人間優先と人類愛の輝きを知らず、神の救いを求めて生きようとする人たちの奉仕のメッセンジャーとしての大きな存在価値をもつものばかりです。こうした環境の中に生まれ建てられたこの殿堂も、社会的に有用な人づくりの場としての意味をもつものでなければならぬし、またこのようにな多くの人たちの愛の行動の場として役立つものでなければならぬし、と信じます。開館記念式が行われた三月十四日、長谷川学長は声大にして、知識人となるようとするのは、もとより大切なことではあるが、それにもまして自己の人格とパーソナリティを育てようという心、人間としてまた人の道として生きていく重要なことであると力説され、看護に携わる者は身体的に足腰が強くなるといふことを、さらにことばを続け、人の恩、社会の恩を知る、

感謝のことば

二科二年 平川広子

このたび聖蹟学園の体育館が落成しました。私達学生の長い間の望みであり、まさにうれしかった体育館が出来上り、本当にうれしく思います。中に入っただけで、バスケットコート一面というすばらしい広さになり、完成に当たり病院関係者、御父兄一般市民など各方面の方々から多数の寄付金、御協力などをいただきました事を思い、学生一同感謝にたえます。



短大51年度卒業式に最初に使われた講堂

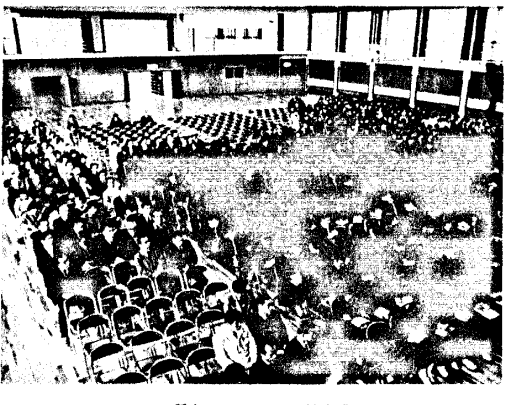
感謝のことば

三B 松田恵子

を送り、又教育の場としても大いに利用できる体育館にしてほしいと思います。

的障害の持ち主であつても一歩でも健康(近づく)と努力すること大切なこととまで思っています。スポーツは人生の青春を保持する原動力の一つとなり、生涯体育の中核をなすものであつて、そのスポーツ精神は社会の向上と発展に貢献するところが、まことに大いのものであることは衆知の事実となつてまいりました。が、ジョージア大学の「競技は人間のためにあるものであつて、人間が競技のためには競争の原動力を忘れてはなりません。以上まことに乱文ではありますが、愚見の一端を述べ、喜びと決意のこぼれを述べたいと思います。

体育館兼講堂建設資金 寄付者御芳名



質素につつましく献堂式

- 自昭和五十一年五月十五日 至昭和五十一年五月十五日
- 鈴木生一 水野了 飯島尚治 芥川 睡 福原 光子 九善名昌屋支店 金子 英男 吉原 明 金子 典子 八田 亨
- 小林 光世 高橋 昌子 峯真理子 丹羽 眞子 山本 敏博 野原 秋子 山本 敏博 高野 政利 田中市太郎 岩根 澄代 高橋 知子 九井 信子 松原 商店 遠州信用金庫 林 富美子 柳協和銀行 林 日祥 杉山 寛寿 秋元 保雄 白石 雄雄 大石 正寛 健石 忠彦 古谷 昌取 堀 純直 成田昌司 堀 次郎 藤原 利明 外山 香澄 藤原 明 鈴木 哲夫 柴田 隆 伊藤 和彦 綿嶋 義典 山村はるよ 川島千恵子 村上 鉄也 鈴木孝子 村上 真紀 鈴木 徳子 新井 邦延 太田 豊 永次よし子
- 目録額 三、八〇〇千円 現在額 三、三七七千円
- 職員一同
- 短期大学生特別寄付 安達 一雄 堀内 重義 田淵 重雄 北村 俊夫 原田 一郎 鈴木 繁 八木 真代 影山 福司 富田 麻一 本多 栄一 長尾 康男 芥川 清 晴 俊雄 土屋 暢司 西田 政男 小野 威男 中谷 幸夫 正田 輝夫 山谷 照義 二科一年有志 鈴木 一男 大島 連 渡辺 衛 山岡 梅雄 青田 栄 日置 定美 原田 一夫 大迫 清松 久保 博之 森川 健 新川 会 竹下 博正 伊藤 達雄 林 八十一 竹下 博正 和田 朝夫
- 目録額 一、八〇〇千円 現在額 一、四〇〇千円
- 聖蹟学園同窓会 伊藤 静世 富沼 幸子 永田めぐみ 加茂 悦子 松下 幸代 竹内 悦子 安前富子 上野 桂子 准看五期生一同 准看四期生一同 准看三期生一同 准看七期生一同 松沢 妙子 小口 照子 吉田 博子 岩瀬 澄代 横井みどり 宮崎美佐子 高林 和子 佐藤 和子 小島 元子 小林 繁子 太田 勝見 兵頭 輝子
- 目録額 三、〇〇〇千円 現在額 七、二三三千元
- 目録額 三、〇〇〇千円 現在額 一九、八四三千元
- 高等学校友会 酒井 安 杉本 正巳 上村 式男 家藤ララ 高校友会 若森 金一
- 目録額 七、〇〇〇千円 現在額 一、八四五千元
- 目録額 七、六〇〇千円 現在額 六、〇九七千円
- 目録額 五、〇〇〇千円 現在額 七、二三三千元
- 目録額 三、〇〇〇千円 現在額 一九、八四三千元

- 森本 静子 木原 俊子 西尾 恵子 古橋 里子 河合 俊美 藤原 たつ 林 玉枝 藤井 葵子 太田美奈子 鈴木 和恵 小栗千加子 山口 照子 准看三期生一同 崎山 孝子 土井 好子 明田 節子
- 目録額 七、〇〇〇千円 現在額 一、八四五千元
- 短期大学生特別寄付 安達 一雄 堀内 重義 田淵 重雄 北村 俊夫 原田 一郎 鈴木 繁 八木 真代 影山 福司 富田 麻一 本多 栄一 長尾 康男 芥川 清 晴 俊雄 土屋 暢司 西田 政男 小野 威男 中谷 幸夫 正田 輝夫 山谷 照義 二科一年有志 鈴木 一男 大島 連 渡辺 衛 山岡 梅雄 青田 栄 日置 定美 原田 一夫 大迫 清松 久保 博之 森川 健 新川 会 竹下 博正 伊藤 達雄 林 八十一 竹下 博正 和田 朝夫
- 目録額 一、八〇〇千円 現在額 一、四〇〇千円
- 聖蹟学園同窓会 伊藤 静世 富沼 幸子 永田めぐみ 加茂 悦子 松下 幸代 竹内 悦子 安前富子 上野 桂子 准看五期生一同 准看四期生一同 准看三期生一同 准看七期生一同 松沢 妙子 小口 照子 吉田 博子 岩瀬 澄代 横井みどり 宮崎美佐子 高林 和子 佐藤 和子 小島 元子 小林 繁子 太田 勝見 兵頭 輝子
- 目録額 三、〇〇〇千円 現在額 七、二三三千元
- 目録額 三、〇〇〇千円 現在額 一九、八四三千元

